(1)　日時

10 時 40 分　⠼⠁⠚⠄⠼⠙⠚

８時 30 分から９時 20 分　⠼⠊⠚⠄⠼⠉⠚ ⠫ ⠼⠊⠚⠄⠼⠃⠚

⠼⠊⠚⠄⠼⠉⠚

11 月３日　⠼⠁⠁⠄⠼⠉

2023 年 12 月 15 日　⠼⠃⠚⠃⠉⠄⠼⠁⠃⠄⠼⠑ （’23　12　15）

1 月 24 日 10 時 12 分　⠼⠁⠄⠼⠃⠄⠼⠚ ⠼⠁⠄⠼⠁⠚⠄⠼⠃

(2)　章・節などの見出しやページ・行数、住所、電話番号など

第６章　第７節　第５項　⠼⠉⠄⠼⠛⠄⠼⠁

４ページ８行目　⠼⠙⠄⠼⠗ ⠼⠁⠄⠼⠓　⠼⠙⠄⠼⠚

８ページ３行目から 12 ページ６行目まで

⠼⠗⠄⠼⠚⠄⠼⠛⠄⠼⠁⠄⠼⠋

住所など（第１つなぎ符を間にはさんだ例）

⠼⠉⠄⠼⠚⠄⠼⠁⠄⠼⠛ （３丁目１番７号）

電話番号（マスあけを省略してつめて書いた例）

⠼⠚⠄⠼⠊⠄⠼⠊⠊⠊⠊⠄⠼⠁⠄⠼⠁⠁⠁⠁ （03　9999　1234）

第６節　試験問題と解答の書き方

試験は、限られた時間内で行われるものであり、特に分かりやすい形式で作ることが要求される。ここでは、点字問題の作成上、必要と思われる事柄について述べる。将来的にも、様々な形式の試験問題に慣れておくような配慮も必要である。（詳しくは、日本点字委員会『試験問題の点字表記』を参照されたい。）

１　試験問題の書き方

(1)　試験の名称や教科・科目名は１行目の７マス目から書く。

(2)　問題は大問ごとにページを改め、大問番号は５マス目から裸数字（句点やカッコを用いない数字）を用いて書く。

(3)　各大問は、通常、問題の指示文・問題文・設問・選択肢の順にする。

(4)　問題の指示文は大問番号の次の行の３マス目から書く。

(5)　問題文は、指示文の次を一行あけて、その次の行の３マス目から書

き始める。

(6) 問題文が長文の場合は大問ごとに分冊する。問題文の後の設問はページを改め、１行目の５マス目から「○○ノ⠀セツモン〈○○（大問番号）の設問〉」と記し、次の１行をあけて、小問を順に書いていく。

(7) 問題文が短い場合には、問題文と設問の間を１行あけてその区別を明確にする。

(8) 選択肢が設問文から独立している場合は、設問文と選択肢群との間を１行あける。選択肢は、記号・番号ごとに改行し、各行３マス目から書き始める。番号・記号と選択肢の間は一マスあけを原則とするが、二マスあけにすることもある。

(9) 問題文がなく、設問文と選択肢だけからなる問題の場合でも、設問ごとにページを替えるようにする（設問文と選択肢の間は１行あける）。

(10) 一つの選択肢の途中、あるいは、短い選択肢群の途中ではページが替わらないように工夫する。

(11) 問題文は、限られた時間内により速く検索できるような点字表記を心掛ける。検索の手がかりとして区切り線や１行あけを用いるが、濫用や不統一な使用にならないよう注意する。なお、１行あけは、次のような箇所などで用いると効果的である。

ア　大問の指示文と小問の間

イ　問題の指示文と長文の本文の間

ウ　設問と設問の間

エ　設問と選択肢群の間

オ　選択肢群が複数ある場合はその間

(12) 大問の最終行の次の行の中程に ⠒⠒ の連続線を引き、その大問が終止したことを示す。

２　文章中における記号などの用い方

(1) 傍線・下線

試験問題に使われる傍線・下線については、目立って安定した形の第３指示符（⠤⠤⠤～⠤⠤⠤）を用いる。傍線・下線に付けられた記号・番号は、第３指示符の開き符号の前にマスあけをせずに書く。

傍線・下線のほか二重傍線（二重下線）や波線などが用いられている場合は、その前に付ける番号や記号で区別し、すべて第３指示符で統一して

差し支えない。傍線内にさらに波線等があり、別の符号が必要なときは、第２指示符（⠰⠆⠆～⠆⠆⠰）を用いる。

（例）

□□⠰⠶⠆□ツギノ□⠶⠰⠲⠶⠆⠆⠆⠶⠰⠲⠶ノ□ハイクノ□

カセンブノ□ゴクノ□イミヲ□ソレゾレ□コタエヨ⠶

□□□□□□□□□□□□……（１行あけ）

□□⠶⠰⠲⠶□クサノ□トモ□スミカワル□ヨゾ□⠰⠆⠆ヒナノ□

イエ⠆⠆⠲

□□⠶⠰⠲⠶……

□□⠶⠰⠶⠶……

７．次の俳句の下線部の語句の意味をそれぞれ答えよ。

（１）草の戸も住み替わる代ぞ<u>雛の家</u>

（２）……

（３）……

◇この例は、点字の指示文を読んで小問数を把握できるように「（１）～（３）の俳句の」としている。

◇俳句の表記は、ここでは現代仮名遣いにしている。

(2) 空欄

空欄には空欄符号（⠰⠶⠶⠲）を用いる。空欄に付けられた記号・番号は、墨字では空欄の中に付されていても、点字では空欄符号の前に出し、マスあけせずに書く。また空欄符号の中の ⠶ の部分を増加して空欄の大きさの違いを表してもよい。

（例）⠶⠰⠲⠶⠰⠶⠶⠲　（（２）[　　])

⠶⠰⠲⠶⠰⠶⠶⠲　（[a])

墨字でカッコが空欄として使われている場合も、点字では空欄符号を用いる。

３　点字試験問題作成上の配慮事項

(1) 解答に字数制限がある場合の例

ア　「何字で本文中から抜き出せ。」といった正解が決まっているよう

な設問は、正解を確かめ、「点字○マス」とする。

イ　正解が必ずしも一定でない設問では、墨字の文字数の 1.6～1.8 倍でマス数を計算し、その数を５または 10 に切り上げ、原問題に合わせて「点字○マス以内」のように示す。

(2) 長文問題の空欄や傍線部・下線部についての設問では、検索を容易にするため、傍線部や下線部の文や語句を設問中に再掲するとともに、その始まりのページと行を次のように付記する。

⠹⠏⠼⠁⠀⠹⠇⠼⠑　　ｐ８⠀ℓ５

⠹⠏⠼⠉⠀シタ⠀⠹⠇⠼⠋　　ｐ12⠀下⠀ℓ６

行を数える場合は、ページは行に数えないが空白行も数える。下から数える場合には、実際に書かれている行を下（した）１行とする。

(3) 点字問題では全体像を捉えやすくするため、指示文を読むことで、設問や空欄・選択肢などの数を把握できるように書き表す。

（例）次の問いに答えよ。　→　次の問い（１）～（５）に答えよ。

適当なものを選べ。　→　適当なものをア．～エ．から選べ。

(4) 入試などの墨字の原問題を点訳する際、設問の指示等が点字問題として適当でなく変更が必要となったり、代替問題が必要になったりする場合がある。ほかにも、原問題の変更が必要な場合は、試験実施者と協議し了解を得る。

（例）記号をマークせよ。　→　キゴーヲ⠀コタエヨ⠲

作者名を漢字で答えよ。　→　サクシャメイヲ⠀コタエヨ⠲

正しいものに○、間違っているものには×を書け。

→　タダシイ⠀モノニ⠀マル⠲⠀マチガッテ⠀イル⠀モノニワ⠀バツヲ⠀カケ⠲

４　答案の書き方

解答にあたっては、点字は墨字のように決まった様式の解答用紙が準備されているのではなく、点字用紙に教科名や氏名、問題番号とその解答などを自分で記入して答案を作成するものであり、次のようなことに注意しなければならない。

(1) 試験の注意事項に従って解答する。解答用紙の最初に名前(受験番号)を書き、用紙すべてにページを付ける。
(2) 解答は、通常、行頭を二マスあけて３マス目から書く。
(3) 大問や小問の番号・選択肢等の番号や記号は、問題文の番号や記号と同じものを用いる。問題文に「トイ⠼⠊⠼」と書いてあれば、答案にも「トイ⠼⠊⠼」と書いて、その答えを書く。問題文の番号に句点や第１カッコが付いていれば答案の番号にも句点や第１カッコを付ける。
(4) 解答は、１問ごとに行替えして書くことを基本とする。
(5) 問題はどこから解いてもよいが、それが何番のどの問いの答えであるかが分かるように、番号をはっきり書く。
(6) 解答を訂正したいときは、マスあけの部分までさかのぼって、「⠿」の字二マス以上で消し、その後ろを一マスあけて次に書き直すか、改行して「テイセイ（訂正)」と書いた上で、改めて答えを書く。